



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 20 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2024 年 2 月 24 日（土）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：5 名（ディベーター 4 名、ジャッジ 1 名）

ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**Agriculture should be experienced through digital technology rather than in the field.**（農業は実地よりも、デジタル技術で体験すべきである。）”でした。

肯定側は農業の持続可能性や安定性のためにデジタル技術の体験をしていくべきだと主張し、否定側は五感を使ったリアルな体験が重要だと説明しました。ディベートの中で焦点が当てられたターゲットとして若者とデジタル技術の活用経験のない農家が挙げられ、それぞれデジタル技術を体験することによる影響について議論しました。

ディベートの中では、デジタル技術の具体例として台風などの予測をして自動で作物を収穫する技術や、GPS の活用などが挙げられたものの、なかなか実際に利用されているデジタル技術の想像がつかず、その後のキーノートレクチャーへの期待をより一層高めました。ディベート後はジャッジより勝敗と個人コメントが伝えられました。



ディベートの様子

キーノートレクチャーでは、大阪公立大学大学院工学研究科教授の福田弘和氏にご登壇いただき、論題についてご解説いただきました。

農業へのデジタル技術活用について、企業による取り組みや、最先端技術などについてご説明いただきました。また、農業ゲームが豊富にリリースされている現状から、農業とゲームの相性が良いことに言及しつつ、福田氏自身が作成した農業ゲームについてもご紹介いただきました。最後に、論題に即してデジタル技術を利用しなかった場合の弊害について解説いただきました。

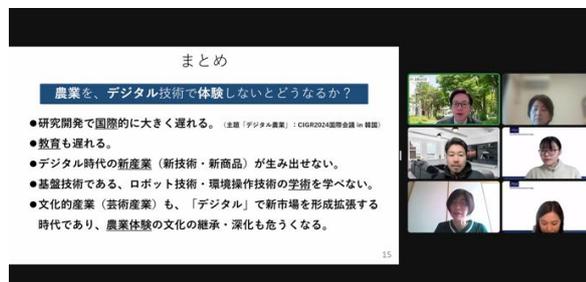


キーノートスピーカ者の紹介

質疑応答では、農業やそれに関連する技術にまつわる教育の現状や、農業ゲームの制作目的など様々な質問が投げかけられました。「デジタル技術は人の手による農業は必要ないところまで来ているのか」という質問について、「農業には2種類あります。食料（食糧）をリーズナブルな価格で食卓に提供することを目的としている農業と人々の営みとしての農業です。前者だけについて言えばデジタル技術で提供可能のところまで来ていますが、やはりともに成長する営みや文化としての農業はそれ自体に価値があり、決してなくなることはないでしょう。」とご返答いただき、その後も視野の広がる解説をいただきました。



キーノートレクチャーの様子



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ディベートのアドバイスも、キーノートレクチャーもとても勉強になりました。
- ・ディベート初体験で、皆さんの話についていくのがやっとで、とっても大変でしたが、やってみないとやはり教えられないし、生徒の大変さもわからないので、やってよかったです。
- ・デジタルテクノロジーと農業の現状について学ぶことにより、農業に対する自分のバイアスを感じるとともに、時代の変化を体感した心持ちです。大変勉強になりました！どうも有難うございました。